

児童クラブだより

第116号

2026年3月3日



特集

# 「明日も行きたい」と思える 居場所を目指して



児童クラブは、家へ帰って来たように「ただいま」「お帰り～」の声かけから始まる生活の場です。児童や保護者の、安心・安全な居場所となることを目指し、私たち指導員は、遊びや対話を重ね、毎日楽しく過ごすことができる児童クラブをつくっていきたいと思っています。

表紙写真提供：さくらんぼ児童クラブ  
すまいる児童クラブ

特集

# 「明日も行きたい」と思える 居場所を目指して



## 子どもたちの間で生まれる関わり



ブロック遊びも大人気



児童クラブでは人気のマンカラ遊びです!

4月に1年生が入所すると、2年生以上の子どもたちが「ロッカーはここだよ」と声をかけ教えてくれます。気付くと「一緒にマンカラしよう。教えてあげるよ」と遊び始め、自然とその輪が広がっていきます。また初めて会う1年生同士でも、遊びを通して「ブロックで遊びたいな・・・。入れて～」と声をかけ合い、いつの間にか知らない同学年の友だちや、学年をこえたお兄さんお姉さんが友だちになっていることがあります。

思いやりや優しい言葉のある場所は、居心地が良いものです。時にはけんかやトラブルもありますが、互いに伝えあい、認めあう心を育めるような場を大切にしています。



## 保護者にとっての児童クラブ

お迎え時には、日々のお子さんの様子を指導員からお伝えをしています。こちらから伝えるばかりではなく、時には保護者からの何気ない相談や思いを聞く事もあります。児童クラブは、保護者にとっても、子どもの育ちや家庭の相談ができる居場所でもあります。

児童クラブまつりや児童クラブ交流会といった、行事への参加の呼びかけもしています。家庭とは違ったお子さんの表情や成長した姿を見たり、日頃、児童クラブで育ち合う子どもたちの様子を知ったりする機会となっています。

そのような児童クラブとのつながりの中で、保護者にとっても子どもの様子を共有でき、安心できる居場所となるように、心を寄せて関わっています。



親子で触れ合う自然体験活動



保護者も参加、児童クラブまつり



児童クラブでは、みんなで同じ体験を共有する中で、互いに理解し、支え合う関係性が育まれていきます。また子どもたちが困っている時に、指導員は「どうしたの?何かあったの?」と話を聞き、声をかけます。

子ども同士、指導員と子どもたち、保護者同士、保護者のみなさんと児童クラブ。「子どもが真ん中で育つ」という思いで、寄り添いがたくさん生まれる児童クラブを目指していきます。

子どもたち、保護者のみなさんのご協力を得ながら「明日も行きたい児童クラブ」と思える居場所を、つくっていききたいです。



# みらぞうが児童クラブにやってきた 26



## 「技を極めるぞ!」と「相手の気持ちになって考えてみよう!」の巻

～たいよう児童クラブ(六会小学校区)～

少し変わったこま回しに挑戦している!と聞き、たいよう児童クラブへ遊びに行きました。「こんにちは!」庭で数種類のこまを回していて、なんだかとても楽しそう。

「あれは?何をやっているの?」と質問をすると「こまを回して缶に入れて、それをひっくり返して、連続で何回できるかやっているんだよ。」と教えてくれました。

すると見事に連続10回に成功!みんなの腕前とやる気にびっくり。

けがをしていても、あきらめないで片手でチャレンジしてすごいな!



うわ~! すご~

曲芸のように、缶を何度もひっくり返してこまを回していたよ

「ほかの技にも挑戦するよ!見ていて」と呼ばれると“空中手のせ”に熱中している子がいました。成功するとまわりの子が「おー、できた!」と一緒に喜んでます。

頑張っている子や、仲間を応援する姿を見ていたら、気になる掛け声が聞こえてきました。「まわすよ」と言ってからこまを投げる子。今度は「とるよ」と言ってから止まったこまを取る子がいました。「どうして言うの?」と聞いてみると「お互いの邪魔をしないようにと、ぶつかってけがをしないためにだよ」と教えてくれました。みらぞうは“そうか、そうやって楽しく遊ぶためにみんなで工夫をしているんだな”とまた一つ大切なことを知りました。



お見事!



大技が決まった!

こまで盛り上がっていると「みらぞう!このけん玉も練習しているから見て」と、大けん玉で難しい技を次々と披露してくれる上級生。「次は、部屋の中で10連けん玉をやるから来て!」と呼んでくれました。



大けん玉と背比べ



3段の腕前で10連けん玉に挑戦

みんなが、やさしく声を掛けてくれるのでみらぞうも嬉しくなりました。クラブ長に話を聞くと、たいよう児童クラブでは“ソーシャルスキルトレーニング(※SST)”を通じて、自分の言葉や行動で友だちがどんな気持ちになるか?を考える時間を作ったそうです。

その話を聞いたみらぞうは「自分もやさしくしてもらって嬉しかったから、今度は自分が誰かにやさしくしよう!」と思いました。帰る時も「バイバ~イ」と大きく手を振ってくれたので「またね!」の気持ちを込めて、もっと大きくバイバイをしたみらぞうでした。

みらぞう、次はこの児童クラブに!? お楽しみに♪

自分ならこう言われたい!

※SSTとは…  
人との関わり方や日常生活に必要なスキル(あいさつ、気持ちの伝え方、トラブルの回避など)を、遊びを通して楽しみながら身につけていくプログラムです。





## どんな体験ができるかな？

# 児童クラブの自然体験活動

私たちの児童クラブでは、日常生活の中で触れ合う自然や外出先での自然体験等、様々な内容に取り組んでいます。今回は、その一例を紹介します。



ありんこ児童クラブ



初夏

## 公園愛護会スタッフの指導のもと 遠藤笹窪谷公園で田植え体験

まずは、遠藤笹窪谷公園愛護会水田班の方の説明をしっかりと聞くことから始まります。初めて泥に足を踏み入れる1年生から「ワー！」と、楽しそうな声が聞こえてきました。お米を作る楽しさ、大変さを体験できました。



キラリン児童クラブ

初夏

## みんな大好き、少年の森 保護者も一緒にデイキャンプ

飯盒炊飯や豚汁、さらに食後はマシュマロ焼き。みんなで協力した野外炊事の後の昼食は、美味しいな～。初夏の過ごしやすい少年の森で、保護者も一緒に自然を満喫しました。

## 大切に育て、おやつでおいしくいただきました！

「どうやってまん丸になるんだろうね？」  
「このままじっくり見守ってみよう…」。  
みんなで大切に育てたキャベツ。真ん中をカットすると「本当にキャベツだ～」とみんな満面の笑み。その後、おやつのパトフでおいしくいただきました♪

通年



コロリン児童クラブ

## 自然や生き物との出会い 鎌倉広町緑地遊び

初夏

走り回るリスを頭上に深い緑の森を下ると、小川に到着。そのまま時間を忘れて生き物を観察しました。ハイキングコースでは、大きなエノキの木に触れたり、カルガモの親子のあとをみんなでゆっくり歩いたりしました♪



いるか児童クラブ



### 第2回

## 児童クラブ運営委員長会議報告

1月24日(土)、児童クラブ運営委員長会議が開催されました。令和7年度の事業報告、研修報告の他、情報交換が行われました。

## 児童クラブ集会 2026年6月28日(日)

※会場他、詳細は4月に配付するチラシをご確認ください。



令和8年度のテーマは『子どもとインターネット』です。

保護者、地域、児童クラブ関係者が一堂に会し、デジタル社会における子どもの健やかな成長について、考える場になるよう準備を進めております。ご期待ください。

### 編集後記

春の便りと共に、別れと出会いの季節がやってきます。今年度も子どもたちと一緒にたくさんの経験を重ね、泣いたり笑ったりを繰り返してきました。本誌では、『遊び』『言葉がけが持つ力』『寄り添う心』について特集を組み、日々私たちが大切に想い積み重ねてきたものを綴りました。読者のみなさまにも、感じてもらっていただけたら嬉しいです。

井上(風の子)、小野寺(さくらんぼ)、佐々木(いるか)、早川(森の子)



公益財団法人  
藤沢市みらい創造財団

〒251-0054  
藤沢市朝日町10-8 藤沢青少年会館内  
放課後児童育成課

TEL 0466-21-6709  
FAX 0466-28-0009  
URL <https://www.f-mirai.jp>  
E-mail [jidouclub@f-mirai.jp](mailto:jidouclub@f-mirai.jp)



Instagram ↓



MIRAZOOO